

理事長

冨田　勝

ごあいさつ

平素は、中日信用金庫をご愛顧いただき、厚く御礼申し上げます。

皆さまに、当金庫をより一層ご理解いただきたく、2026年版ディスクロージャー誌「2026中日信用金庫の現況」を作成いたしましたので、ご高覧いただければ幸いに存じます。

2025年度の国内経済は、賃上げの進展等を背景に緩やかな回復基調で推移したものの、物価上昇により個人消費は力強さを欠く状況となりました。インバウンド需要は回復基調にあるものの、中国による日本への渡航自粛要請等により訪日客数に伸び悩みが見られました。また、中東情勢の緊迫化に伴う原油価格の上昇は企業収益の下押し要因となり、物流面の不確実性も高まりました。当地域においては、基幹産業である自動車関連産業を中心に持ち直しの動きが見られ、輸出や生産は緩やかな回復基調で推移しました。2026年9月に開催される愛知・名古屋アジア競技大会を通じたインバウンド需要や消費増加等が期待されており、また2034年度以降に開業見通しのリニア中央新幹線に向けたインフラ整備も進む一方で、中小企業や個人事業主を中心に、原材料価格や燃料費等の高止まりに加え、人手不足や人件費の上昇が収益の下押し要因となるなど、先行きは不透明な状況にあります。

このような中、2025年度の当金庫の業績につきましては、預金積金残高は対前期末比4,949百万円増の346,874百万円、貸出金残高は同2,712百万円増の182,920百万円と順調に推移し、損益面では経常利益は同14百万円減の363百万円、当期純利益は同17百万円減の271百万円と前年度と同水準を維持し、金融機関の本業による利益を表す業務純益は同45百万円減の361百万円となり、適正な利益水準を維持することができました。

2026年度についても、中東情勢の緊迫化に端を発した原油価格の上昇が国内経済全体へ深刻な影響を及ぼす懸念が増しており、また日本銀行による利上げのタイミングなど金利の先行きも不透明感が増しております。

このような状況下において、当金庫では近年、不祥事件が複数発生しており、再発防止を徹底し引続き業務改善計画を着実に実行することによって、会員の皆さま・地域の皆さまからの信頼回復を図ることが最優先課題であると認識しております。

これからも当金庫は、パーパス『想いをつなぐ　共につくる未来』の実現に向けて、協同組織金融機関として、「相互扶助の精神」を常に意識し、助け合い、協力し合って、お客さまの成長と地域の発展に貢献してまいる所存です。

今後とも、格段のご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

2026年7月